

地域振興推進費事業計画・自己評価書（実績）

提出区分		実績	整理番号	5	課題区分	C	令和8年2月24日		
横断的な課題		1. 諏訪湖創生ビジョンの推進 2. ハケ岳・霧ヶ峰の豊かな自然と共生する地域づくり							
地域重点政策		諏訪湖創生ビジョンの推進/ハケ岳・霧ヶ峰の豊かな自然と共生する地域づくり					諏訪地域振興局		
実施機関		諏訪地域振興局			担当課	所属	環境課		
事業名		自然保護体験モニターツアー				電話	8-235-2546		
						E-mail	suwachi-kankyo@pref.nagano.lg.jp		
事業の概要等	目的 (目指す姿)	・自然環境保全活動の関わり手不足を解消するために、地域と連携し地域資源を活用することで、参加者が保全活動をイベントのひとつとして捉えている。 ・地域が自然環境保全活動自体を旅行商品として認識し、自らが持つ資源と組合せて活用することを計画している。							
	現状と課題	・諏訪管内で実施している自然環境保全活動は、諏訪湖及び霧ヶ峰において関わり手(作業者)不足が課題となっており、関係市町村や合同庁舎職員も参加して担っている状況である。 ・全国的な取組として自然保護ツアーは推進されており、エコツーリズム協会が実施している調査では、参加者のリピート意識は80%を超えている。 ・しかしながら、ツアーの多くはガイドツアーであり、保全作業を実践的に行うツアーは全国的にも少なく、そのニーズがあるかは未知数。							
	内容 (変更後の内容)	・自然保護活動と地域資源等を組み合わせ、旅行商品として捉えてもらうためのニーズや課題を探るべく、諏訪湖及び霧ヶ峰において複数回実施する保全作業に参加いただき、アンケートへ回答してもらう。 ・その評価結果を元にエコツーリズム協会の調査と比較分析し、関係機関へ情報提供を行う。 ・実施内容は、地域重点施策に応じた諏訪湖及び霧ヶ峰で実施。 ・各場所毎の保全作業、組合せの地域資源は次のとおり 【諏訪湖】(保全作業)ヒシ刈り × (地域資源)カヤック・温泉 (実施日:6月27日(土)、7月27日(日)) 【霧ヶ峰】(保全作業)草原整備 × (地域資源)自然保護センター・草原環境 (実施日:8月30日(土)、9月20日(土)) なお、交通手段の手配もツアーに含まれる							
	事業期間	R7. 4 ~ R8. 2							
事業費等	(単位:円)								
	事業を構成する細事業名等		実施内容		計画(実績)額		備考		
	【諏訪湖】モニターツアーの開催		カヤック等でのヒシ刈り体験		338,495		カヤック手刈り体験業務委託一式 259,600 温泉体験委託一式 64,000 消耗品 14,895		
	【霧ヶ峰】モニターツアーの開催		ガイド同伴の草原整備体験		284,145		外来種駆除体験業務委託 80,000 貸切バス委託等 189,250 消耗品 14,895		
	合 計				622,640				
指標及び達成状況	成果指標			目標値		成果		達成状況	
	アンケート回収率			100%		100%		● 達成	
	参加者のSNS掲載			5件		64件		○ 一部達成	
	取組や分析結果に関する外部からの問合せ			5件		8件		○ 未達成	
事業実績・成果	(KPI) 当日キャンセル等により募集定員80名に対する参加人数は76名となった。アンケート結果の回収数は76件となり、参加者の回答割合は100%となった。 参加者アンケートによると、SNSへの投稿数は64件(51名が回答。複数媒体(Instagram、Facebook等)への掲載報告あり)であり、想定を大きく上回る結果となった。 募集段階及び実施後、報道機関から5件の問合せ及び8件の掲載(新聞)。また、アンケートをもとにした分析結果に対しては3団体(一般社団法人霧ヶ峰Act、株式会社ホテル紅や、木曽地域振興局商工観光課)から問合せがあり、木曽地域振興局については、結果をまとめた報告書について参考資料として活用する旨の連絡があった。 (総評) 76人中75人の参加者が今後何らかのエコツアーやボランティア作業への積極的な参加意向を示すとともに、多くの参加者において自然保護に対する認識(環境の維持には整備が不可欠など)の変化につながるという、期待どおりの結果となった。 一方で、今回のモニターツアーは【諏訪湖編】【霧ヶ峰編】ともに実質7000円/人の経費を要したが、参加者が評価した金額は全体平均2,500円/人と乖離があるため、事業者が実施するには負担を強いるものになると推測されることがわかった。 今回のモニターツアーの分析結果については、2月6日の環境課の連絡会議でも情報共有を行ったが、結果を元にニーズに沿いつつ、自然環境保全活動の関わり手不足の解消という目的を達成できるよう、事業内容を見直しながら継続できれば良い効果を生むものと思料した。								
	今後の方向性								
今後の方向性		今回の結果を踏まえ、効果が見込まれる作業体験部分について、県・市町村・民間が実施する事業のなかで継続的に実施していけるよう、調整や提案を行うとともに実施方法を支援していく。							